

フィリッピンにおける地域開発戦略の変遷

神 田 道 男 (国際協力事業団)

フィリッピンは、地理的にルソン、ビサヤス、ミンダナオの3地方に分けられる。20世紀初頭(1918年)に約1000万人であった人口は、1970年代には約4000万人、1996年には約7000万人と増加しているが、長期的に人口の増えている地域は、ルソン島北部のカガヤン地方、マニラ首都圏、ミンダナオ島である。

1970年に成立した第2次マルコス政権は、地方開発のため中央に地域開発の新たな組織を編成し、直接に主要な後発地方の開発を推進した。一方、1986年に成立したアキノ政権は、1991年10月地方自治法を制定し、多くの機能とサービスを地方政府に委譲した。フィリッピンの歴史的背景を踏まえつつ、この二つの時代の地方開発戦略を、地域総合開発としてのカガヤン農業総合開発計画と地方自治法の制定後のセブ地域興しプロジェクトを通じ、比較検討する。